

高校球児たちの熱い夏を 県民と共に応援！

7月13日に開幕する、第100回全国高等学校野球選手権記念三重大会。県内の4球場を舞台に、甲子園を目指す高校球児たちの熱い闘いが繰り広げられていく。その熱戦の様相を毎年1回戦から実況生中継する三重テレビ報道制作局の思いもまた熱かった。

綿密な取材と調査による 独自の資料で中継に臨む

三重テレビの高校野球中継は、内容の濃さで知られている。試合の実況に留まらず、野球への情熱、仲間と歩んできた時間、指導者との絆、学校生活、家族の支えなど、チームや指導者、選手個々の背景を織り交ぜつつ、ひたむきに野球に励む高校球児たちの姿を県民に届けてきた。

約20年にわたり高校野球の実況を担当してきた平田雅輝アナウンサーに、中継で用いる資料を見せてもらうと、実に丹念な取材の痕跡が見て取れた。これまでのチーム成績、ベンチ入りする選手の特徴、監督が求めている役割のほか、各選手のパーソナルデータやコメントも見やすく整理されている。

「三重大会の組み合わせ抽選が終わると、自分たちが担当する試合（高校）が割り振られます。全国紙や地方紙に掲載された、県内の高校野球大会に関する記事は日頃からス

クラブしています。実際に高校に赴き、監督や選手に本格的な取材を始めるのは担当が決まってからです」と平田アナウンサー。

「野球に取り組み一番の原動力を聞くようにしています。そこには、大人へと成長していくなかで、球児たちが育んできたもの、もつとも意識している何かが詰まっていると考えるからです」と中久木大木アナウンサーは取材時のこだわりを話している。

大会出場校それぞれの 高校野球を伝える

今年の選抜でベスト4に入った三重高校のように、全国の頂点を目指す学校もあれば、初戦突破を目標にする学校もある。「そんな球児たちそれぞれの頑張りを伝えたい」という平田アナウンサーによれば、実況には各アナウンサーの個性が出るそうだ。自身は競技に主眼を置いて、プレーを重視した実況を心掛けていると話す。



各校の情報をまとめた平田アナウンサーの実況用資料。コメントしやすいよう、文節の区切りには赤い斜線を入れている

「色克美アナウンサーは「どんなチーム・選手にも光る部分、努力の跡がありますし、家族や地域など背中を押す存在があります。試合展開を第一に伝えた上で、そんなエピソードも盛り込みたいと考えています」と選手たちの人間性にもスポットを当てたいと語る。

今年新たに大会実況に加わったのが、若林希アナウンサー。昨年の秋から球場に幾度となく足を運び、平田アナウンサーの指導のもと、目の前の状況を瞬時に言葉に出す訓練をしてきた。



中継車のボディには、三重テレビのマスコットキャラクター「エムっくん」と、ガールフレンドの「ピっとちゃん」が描かれている

夏の太陽の下、約2時間に及ぶ試合を撮影するカメラマンも、頭上に防暑（よしず）の覆いを付けて白球を追う

実況中の放送席。「普段はクーラーが効いたところで原稿を読んでいるが、夏の高校野球の実況は体力的にとっても過酷です」と、放送中に熱中症になった経験がある平田アナウンサーは話す



第100回全国高等学校野球選手権記念三重大会・放送スケジュール ※当日の進行状況や天候により、試合やダイジェストの放送日時は変更の場合あり

7月12日(木)19:00~20:40 開幕直前SP 「HEROES~あの夏、僕らは白球を追いかけた~」	7月14日(土)~25日(水) 1回戦~決勝戦	7月22日(日)23:00~ 準々決勝ダイジェスト
7月13日(金)19:30~22:20 高校野球開幕スペシャル	7月21日(土)・22日(日) 3回戦・準々決勝	7月24日(火)22:15~ 準決勝ダイジェスト
	※2つのチャンネルで同時生中継	7月25日(水)22:15~ 決勝ダイジェスト

三重県に拠点を置く唯一の民放テレビ局として、1969年に開局した三重テレビ。翌年より全国高等学校野球選手権三重大会の準決勝と決勝の生中継を開始した。1回戦から放送するようになったのは1975年。これまで約1300試合を中継してきた。

開会式と開幕試合は2008年以降、生中継でなく、ゴールデンタイムの開幕スペシャル番組で、大会の見どころやチーム紹介などと合わせ、ダイジェストで放送している。また、

3回戦と準々決勝を マルチチャンネル中継

「実況は初めてで、まだ自信が持てません。まずは正確に伝えることに集中したいです。入社1年目から、大会のハイライト番組のキャスターとして、選手の横顔やベンチ入りを果たせなかった選手の思いなどを伝えてきました。ゆくゆくは、その経験を生かして、選手の気持ちに寄り添えるような実況をしたいです」

初々しさのなかに意気込みをのぞかせる若林アナウンサーに対して、平田アナウンサーが言葉をかける。「僕らにとっては毎年の仕事で、担当するたくさんの中での1試合かもしれない。しかし、選手にとっては一生に一度の晴れ舞台。たとえ失敗してへこんでも、どんなに苦しくても、最後まで選手たちの思いに残るような放送をしよう。自分のためじゃなく、選手のために頑張れ」。実況デビューをするアナウンサーに伝統的に伝えてきた言葉だという。

column ハンセン病問題を追って

三重テレビでは、ハンセン病をテーマとしたドキュメンタリーを、現在までに6本制作している。「きっかけは、2001年5月の国家賠償請求訴訟の熊本判決です。三重県には療養所はありませんでしたが、三重県庁でハンセン病回復者の方とずっと交流されてきたことを聞き、取材を始めたのです」と中心になって番組制作に携わってきた小川秀幸報道制作局長は振り返る。

そのときの取材をまとめたのが、最初のドキュメンタリー「かけはし」(2002年放送)だった。「制作を進めるうちに、大変な問題がずっと置き去りにされてきたんだな、という思いが募り、以来この問題を追いつけてきました」

そして2016年12月、集大成ともなる「大ちゃんとおさん〜あるまじの風景〜」が放送された。番組は高く評価され、第54回ギャラクシー賞テレビ部門の選奨などに輝く。さらに今年5月には「Yahoo!ニュース」との共同で、元ハンセン病患者らに再取材したドキュメンタリーを制作して配信を始めている。



報道制作局長 小川秀幸さん

2011年からは、県内の高校生を応援スタンドリポーターとして起用。いい間違いなどの失敗もあるが、同世代ならではのレポートが視聴者に好評だという。

昨年は初の試みとして、準々決勝の試合をマルチチャンネルによる二元中継で放映した。今年は四日市市営霞ヶ浦球場と県営松阪球場で行われる3回戦と準々決勝を、マルチチャンネルで同時生中継する。

「どんな試合展開でも諦めない、という球児たちの姿に心洗われまします。そんな高校野球の時期がやってきました。ぜひ皆さんもいっしょに応援しましょう」

真剣にプレーする球児たちをしっかりと伝えたいです

試合中に放送する、過去大会のハイライトもぜひご覧ください

高校野球の楽しさが多くの方に伝わるような放送をしたいです

100回という記念大会でのデビュー。一生懸命頑張ります

高校野球の実況を担当する4人のアナウンサー。右から若林希さん、平田雅輝さん(報道制作部長)、一色克美さん、中久木大木さん



三重テレビ放送

津市浜見町693-1
TEL0570-030-777 http://www.mietv.com

三重県内のホットな話題を紹介する「とってワクドキ」や県内の最新ニュースを伝える「ニュースウィズ」、現在脚光を浴びる刀をテーマにしたシリーズ番組「宝刀」などに注目したい